

御門主へ進せらるゝ、年始の御文などの脇付に、縁髪中となさるゝは、延喜式神事の忌詞に、僧を
髪長といふより起りたるなるべけれども、もとより御法身の御方への脇付、忌るゝも理にあた
らざるか、

〔吾妻鏡十九〕承元二年正月十一日辛巳、略中 去八日雖爲式日、依將軍家源御歡樂。延及今日、

〔吾妻鏡三十一〕嘉禎二年正月一日己未、晚飯相州御今日不被上御簾、依御歡樂無出御之故也、

〔續百一錄〕延享五年正月十二日、略中 久我家へ覺、

來十五日、十六日、二條行向之儀、仍歡樂、十五日以使者申入候、右之段宜頼存候、以上、

正月 日、西野左近

久我——柳原——

十五日、略中 牧野備後守殿へ、西野左近年始御祝儀、依歡樂以使者被申入、小堀も同斷、

〔増山の井〕いねつむ俳いねあぐる、同 正月の寢起をいふなり、

〔俳諧歲時記春〕寢積寢舉 寢と稻と和訓同じき故に祝詞とするか、積も舉も又稻の縁語な

り、雜談抄に云、寢臥と常のごとく唱ふるは、病床などにまぎらはしければ、かくいふ也、涙をなが
すを米こぼすと云に同じ、

〔空華日工集〕康曆二年正月一日、佛前祝語曰、歲旦令辰、焚此妙香、一願天子萬年、二願宰臣千秋、略中

六願兵革息而四海平、七願五穀登而萬民樂、忽或有人道、南陽尋常不徇人情、不好世禮、今朝目甚與

麼道、余祇對佗道、聊復爾耳、則箇、

〔親元日記〕寛正六年正月十日戊午、就今日御成、美物以下被進之方々、略中 齋藤越中入道、雁二、來々

一折、略中 以上親元申次分、私云鱈ノ腸ヲ不來々々ト云テ正月用ダツ、不來々々ト云ハ、名詮アシキ

ニヨリテ、中比ヨリ來々ト書タリ、